

世田谷区における中小企業の景況

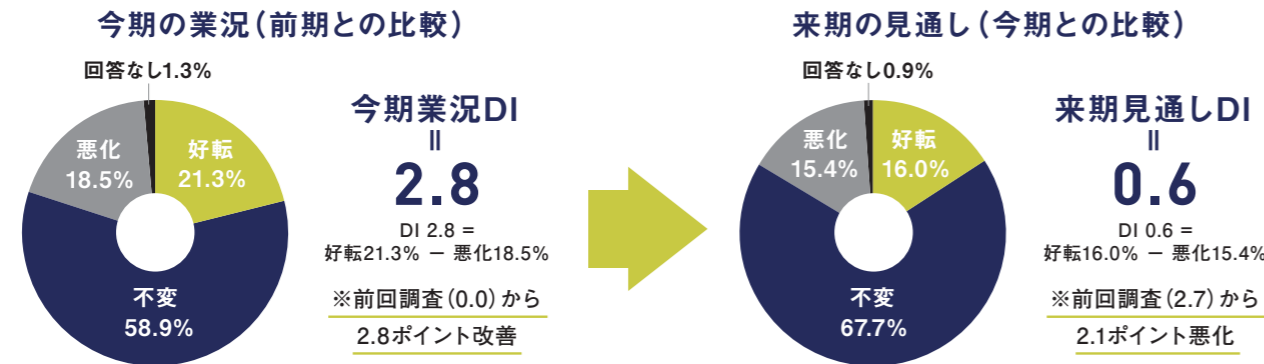
第58回調査実施概要

1.調査時期:平成29年1月5日～1月16日 2.対象期間:平成28年10月～平成28年12月期、および平成29年1月～平成29年3月期見通し 3.調査対象:支部会員中小企業(2,876社)①製造業・建設業・運輸業・その他の業種(②～④を除く)…資本金3億円以下、または従業員300人以下 ②卸売業…資本金

1億円以下、または従業員100人以下 ③小売業…資本金5千万円以下、または従業員50人以下 ④サービス業…資本金5千万円以下、または従業員100人以下 4.調査方法:調査票郵送～郵送・FAXにて回収。世田谷信用金庫・昭和信用金庫に協力依頼。5.回収状況:合計319社(回収率11.1%)製造業…35社・不動産業…35社・小売業(飲食業含む)…70社・建設業…58社・卸売業…33社・サービス業…88社 ※数値については小数点第2位を四捨五入しており、計算値が一致しない場合がある。

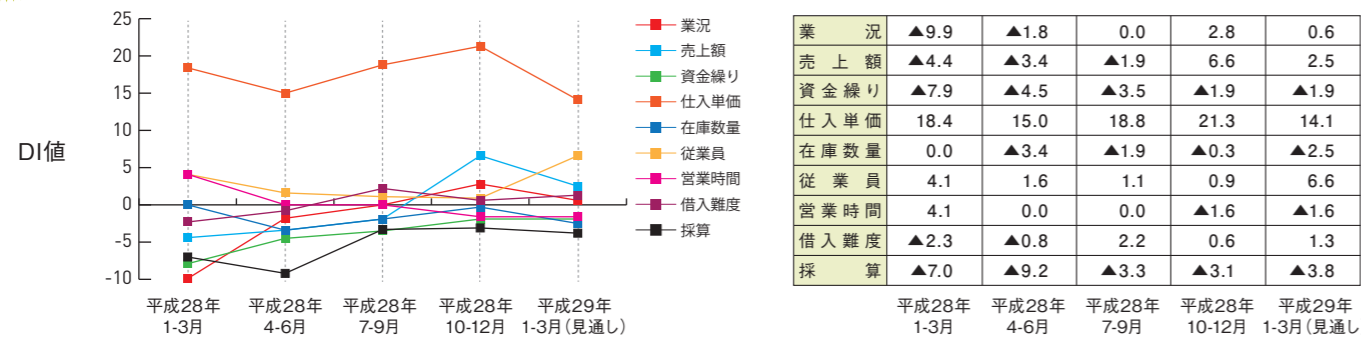
業況

今期(平成28年10月～12月期実績)の業況DIは、2.8ポイントで、前期から2.8ポイント改善し、3期連続の改善となった。来期の業況見通しDIは、0.6ポイントと、前回調査から2.1ポイント悪化する見通し。



主な指標別の傾向

今期は、売上額6.6(前期比+8.5)など5指標でポイントが増加し、営業時間▲1.6(同▲1.6)など3指標が減少した。来期見通しは、従業員6.6(当期比+5.6)など2指標のポイントの増加が見込まれるが、仕入単価14.1(同▲7.2)、在庫数量▲2.5(同▲2.2)など4指標でマイナスが見込まれる。



主要景況指数表[今期の状況(前期比)]

(注)調査項目:業況(好転⇨悪化)、売上額(増加⇨減少)、資金繰り(好転⇨悪化)、仕入単価(上昇⇨低下)、在庫数量(増加⇨減少)、従業員(増加⇨減少)、営業時間(延長⇨短縮)、借入難度(容易⇨困難)、採算(好転⇨悪化)

	業況	前年同期比	売上額	前年同期比	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	2.8	▲2.2	6.6	0.0	▲1.9	21.3	▲0.3	0.9	▲1.6	0.6	▲3.1
製造業	17.1	11.4	20.0	20.0	2.9	22.9	▲2.9	14.3	▲2.9	8.6	2.9
建設業	3.4	10.3	12.1	8.6	3.4	22.4	▲6.9	▲1.7	▲1.7	3.4	3.4
不動産業	0.0	2.9	2.9	2.9	▲2.9	17.1	2.9	2.9	▲2.9	0.0	▲17.1
卸売業	33.3	24.2	36.4	27.3	12.1	24.2	12.1	▲3.0	0.0	3.0	24.2
小売業	▲4.3	▲17.1	0.0	▲10.0	▲4.3	31.4	▲2.9	0.0	▲4.3	▲4.3	▲10.0
サービス業	▲8.0	▲15.9	▲6.8	▲17.0	▲10.2	12.5	1.1	▲1.1	1.1	▲1.1	▲9.1

主要景況指数表[来期の見通し(当期比)]

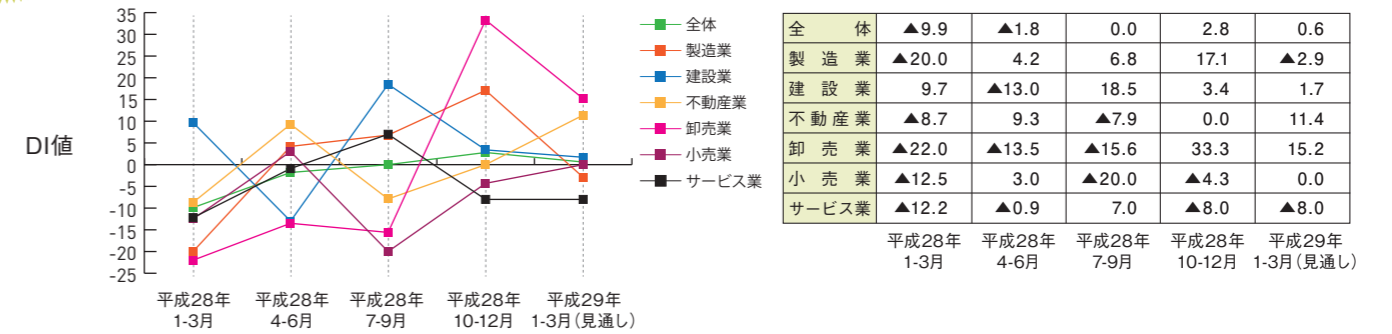
	業況	売上額	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	0.6	2.5	▲1.9	14.1	▲2.5	6.6	▲1.6	1.3	▲3.8
製造業	▲2.9	5.7	0.0	17.1	▲2.9	2.9	▲2.9	2.9	▲2.9
建設業	1.7	6.9	▲3.4	17.2	▲5.2	8.6	▲3.4	3.4	▲1.7
不動産業	11.4	11.4	17.1	14.3	0.0	8.6	2.9	0.0	2.9
卸売業	15.2	12.1	▲3.0	12.1	0.0	6.1	▲9.1	3.0	15.2
小売業	0.0	2.9	▲5.7	17.1	▲8.6	2.9	1.4	1.4	0.0
サービス業	▲8.0	▲9.1	▲5.7	9.1	2.3	9.1	▲1.1	▲1.1	▲18.2

概況:<DI(Diffusion Index)とは…> DI(%)=[良い][増加]等企業割合-[悪い][減少]等企業割合

DIとは、各設問の項目について、「増加」「好転」したとする企業の割合から、「減少」「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値です。したがってDIがプラスを示している場合は、全体として「増加」「好転」したとする企業の割合が多く、景況(またはそれぞれの要素)が上向きの傾向にあることを示します。逆にマイナスを示している場合は、景況が低迷の傾向にあることを示します。

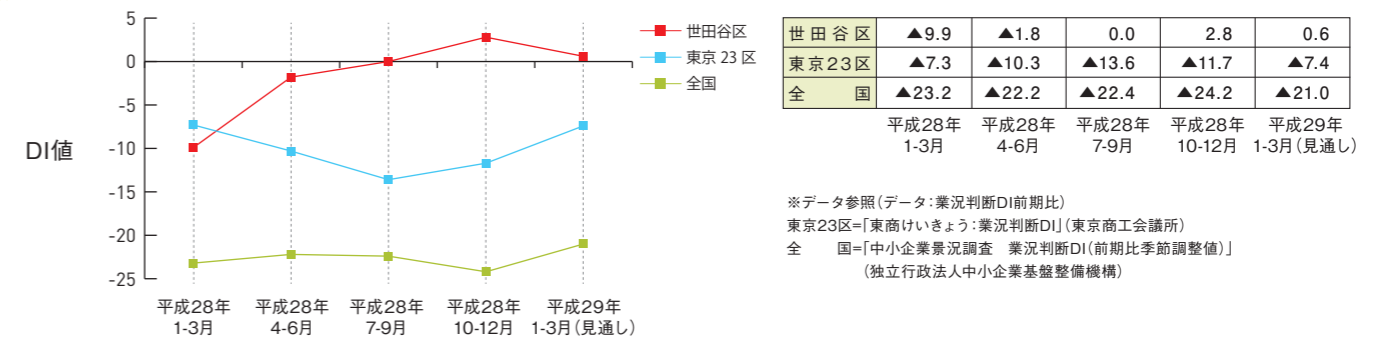
業種別の動向

今期の業種別DIは、「卸売業」33.3(前期比+49.0)、「小売業」▲4.3(同+15.7)、「製造業」17.1(同+10.4)など4業種で改善し、「建設業」3.4(前期比▲15.1)、「サービス業」▲8.0(同▲15.0)が悪化した。来期は、「不動産業」11.4(当期比+11.4)など2業種が改善する見通し。



東京都・全国との比較

「世田谷区」(2.8ポイント、前期比+2.8)は3期連続で改善。「東京23区」(▲11.7ポイント、同+1.9)は2期ぶりに改善。「全国」(▲24.2ポイント、同▲1.8)は2期連続悪化。来期は、「世田谷区」(+0.6ポイント、当期比▲2.2)が悪化する見通しで、「東京23区」、「全国」は改善する見通し。



経営上の問題点

1位「従業員の確保難」28.5%(前期比▲0.4ポイント)と3期連続の1位となった。2位「新規参入者の進出や同業者の増加」22.3%(同+2.9ポイント)が前回順位5位から上昇した。3位「購買ニーズの変化への対応」21.9%(同▲2.0ポイント)と前回順位2位から下降した。同率3位「仕入単価、下請単価の上昇」21.9%(同+3.1ポイント)が前回順位7位から上昇した。5位「需要の停滞」21.3%(同+1.4ポイント)と前回順位4位から下降した。6位「人件費の増加」19.1%(同+0.6ポイント)が前回順位8位から、7位「大企業(大型店)進出による競争激化」15.0%(同▲2.4ポイント)も前回順位9位から上昇した。8位「人件費以外の経費の増加」14.4%(同▲7.4ポイント)は前回順位3位から8位に下降した。

順位	項目	回答数	回答率	前回順位	順位	項目	回答数	回答率	前回順位
1	従業員の確保難	91	28.5%	— 1	11	購買力の他地域への流出	23	7.2%	↑ 15
2	新規参入者の進出や同業者の増加	71	22.3%	↑ 5	12	事業資金の借入難	22	6.9%	— 12
3	購買ニーズの変化への対応	70	21.9%	↓ 2	12	その他	22	6.9%	↑ 14
3	仕入単価、下請単価の上昇	70	21.9%	↑ 7	14	生産設備の不足・老朽化	20	6.3%	↓ 10
5	需要の停滞	68	21.3%	↓ 4	14	取引条件の悪化	20	6.3%	↓ 13
6	人件費の増加	61	19.1%	↑ 8	16	在庫の過剰	14	4.4%	↑ 17
7	大企業(大型店)進出による競争激化	48	15.0%	↑ 9	17	代金回収の悪化	8	2.5%	— 17
8	人件費以外の経費の増加	46	14.4%	↓ 3	18	在庫の不足	5	1.6%	↑ 19
9	販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難	39	12.2%	↓ 6	19	金利負担の増加	3	0.9%	↓ 16
10	店舗・倉庫の狭隘・老朽化	27	8.5%	↑ 11	20	生産設備の過剰	1	0.3%	— 20

※複数回答(3つまで選択)のため、回答率の合計は100%を超える。